池田市埋蔵文化財発掘調査概報

2001年度

2002年3月

池田市教育委員会
序文

池田市は大阪府の北西部に位置し、五戸山の縁、猪名川の水の流れに囲まれています。このような自然の豊かな環境の中、人々が先史の時代から営み始めています。

近年はこの地も、陸・空の交通の要衝として、また、大阪のペットタウンとして開発が進み、大きく発展してまいりました。

しかしながら、このような開発、発展とは裏腹に、我々の祖先が伝え残してきた文化遺産や自然が破壊され、かくての面影がしのぶことができないほど様が変わりてしまったことも事実です。祖先から受け継がれてきた文化遺産を現代生活に反映しつつ、また、後世に伝えることが我々の義務と考えております。

この報告書は、上述した状況の中、危機に面している埋蔵文化財について、国ならびに、大阪府の補助を受けて実施した発掘調査の概要報告であります。本書が文化財の理解に通じれば幸いと存じます。

なお、調査の実施にあたっては多くの御指示、御助言をいただいた諸先生並びに関係機関をはじめ、土地所有者、近隣住民の方々には文化財保護に対して、特別の御理解と御協力をいただきました。心より感謝の意を表し、厚く御礼申し上げます。

平成14年3月

池田市教育委員会

教育長　長江　雄之介
例 言

1. 本書は、池田市教育委員会が平成13年度国庫補助事業（総額1,000,000円、国庫50%）として実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告書である。

2. 本年度の調査および期間は下記のとおりである。

<table>
<thead>
<tr>
<th>名称</th>
<th>所在地</th>
<th>開始日</th>
<th>終了日</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>宮の前遺跡第32次発掘調査</td>
<td>池田市石橋4-304-3</td>
<td>平成13年4月27日</td>
<td>5月9日</td>
</tr>
<tr>
<td>宮の前遺跡第33次発掘調査</td>
<td>池田市石橋4-304-12, 13</td>
<td>平成13年6月8日</td>
<td>6月13日</td>
</tr>
<tr>
<td>宮の前遺跡第34次発掘調査</td>
<td>池田市石橋4-304-11</td>
<td>平成13年6月20日</td>
<td>6月25日</td>
</tr>
<tr>
<td>鉄塚古墳 第1次発掘調査</td>
<td>池田市鉄塚2-234-6</td>
<td>平成13年7月30日</td>
<td>8月7日</td>
</tr>
<tr>
<td>鉄塚古墳 第2次発掘調査</td>
<td>池田市鉄塚2-234-5</td>
<td>平成13年9月25日</td>
<td>10月5日</td>
</tr>
</tbody>
</table>

3. 調査は、池田市教育委員会教育部社会教育課文化財担当が実施し、中西正和が現地を担当した。

4. 本書の執筆・編集は中西が行なった。また、本書の製図、遺物実測にあたっては野村大作・辻美穂の協力を得た。

5. 本書で使用する上層の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所 色票監修）による。

6. 調査の進行にあたっては、施主並びに近隣住民の方々に深謝なるご理解、ご協力をいただきたいことに対し、深く感謝の意を表する次第であります。
目次

I 歴史的環境 .................................................. 1

II 宮の前遺跡発掘調査 ........................................... 5
  はじめに .................................................... 5
  宮の前遺跡第32次発掘調査 .................................. 6
  宮の前遺跡第33次発掘調査 .................................. 6
  宮の前遺跡第34次発掘調査 .................................. 7

III 龍塚古墳発掘調査 ............................................ 8
  はじめに .................................................... 8
  龍塚古墳第1次発掘調査 .................................... 9
  龍塚古墳第2次発掘調査 .................................... 9

発掘調査抄録 ................................................... 12

図版

図版1 宮の前遺跡発掘調査
  1) 第32次発掘調査 トレンチ全景（南から）
  2) 第33次発掘調査 トレンチ全景（南から）

図版2 宮の前遺跡発掘調査
  1) 第34次発掘調査 トレンチ全景（南から）
  2) 第34次発掘調査 上杭1（西から）

図版3 龍塚古墳発掘調査
  1) 第1次発掘調査 トレンチ全景（南東から）
  2) 第2次発掘調査 第1トレンチ全景（南西から）

図版4 龍塚古墳発掘調査
  1) 第2次発掘調査 第2トレンチ全景（南から）
  2) 第2次発掘調査 第3トレンチ全景（北から）
挿図目次

I 歴史的環境
第1図 宮の雑遺跡岩穴式住居跡 ................................. 1
第2図 遺跡分布図 ........................................... 2
第3図 木佐遺跡高座穴式石室 ................................. 3
第4図 豊島南遺跡掘立柱建物跡 ................................. 3

II 宮の前遺跡発掘調査
第5図 調査位置図 ........................................... 5
第6図 レンチ位置図 ........................................... 5
第7図 第32次調査トレレンチ平面図 .......................... 6
第8図 第33次調査トレレンチ平面図 .......................... 6
第9図 第34次調査トレレンチ平面・断面図 ......................... 7
第10図 出土遺物実測図 ......................................... 7

III 鈴塚古墳発掘調査
第11図 石室内十二重塔 ....................................... 8
第12図 調査位置図 ........................................... 8
第13図 トレレンチ位置図 ................................. 8
第14図 第1次調査トレレンチ平面・断面図 ......................... 9
第15図 第1次調査出土遺物 .................................. 9
第16図 第1 トレレンチ平面・断面図 ........................... 10
第17図 第2 トレレンチ平面・断面図 ........................... 10
第18図 第3 トレレンチ平面・断面図 ........................... 10
第19図 鈴塚古墳墳丘図 ...................................... 11
I 歴史的環境

池田市は大阪府の西北部に位置し、東西4.1km、南北9.2kmの南北に細長い市域を有している。その位置は、西摺平野の北部、丹波地域に源を発する猪名川が北摺山地を分割して平野部に出たところにあり、古くから谷口集落として、大阪と丹波、能勢地方の物資集散、文化交流に中心的な役割を果してきた。

池田市の地形をみると、市域のほぼ中央に五木山地が占め、それより北には、北摺山地および余野川によって形成された沖積平野が広がっている。また、五月山地より南には、緩やかな五月山丘陵が広がり、更に南側には、猪名川によって形成された広大な沖積平野が広がっている。このような自然環境の中、人々は旧石器時代から生活を営んでいたことが近年の発掘調査で明らかになっている。

旧石器時代

現在のところ旧石器時代に関するものは希薄である。遺物が出土した遺跡としては、伊居太神社参道遺跡・宮の前遺跡（葦池北遺跡）、宮の前遺跡があげられるが、遺構に関しては未確認である。

伊居太神社参道遺跡は標高約50mの五月山地西端部に位置し、明治年間から石器が採集され、その中に少量ではあるがナフ形石器、尖頭器等の旧石器時代に比定されるものが認められている。宮の前遺跡は、昭和61年度の大阪府教育委員会や平成元年度の豊中市教育委員会による葦池北遺跡で国府型ナフ形石器が出土している。また、宮の前遺跡に隣接する宮の前西遺跡からは翼状断片1点が採取されている。

縄文時代

五月山丘陵に位置している遺跡では、上述した伊居太神社参道遺跡で、縄文時代のサヌカイト製の石鍬、京中遺跡ではサヌカイト製の石鍬・石斧が採取され、近隣の畑ではナフ型石器の尖頭器が採集されている。また、近年の発掘調査においては、池田城跡下層からサヌカイト製の石鍬、近隣の生駒石器産突带文土器が出土している。一方、南部の台地に位置する神田北遺跡では石鍬・石斧、宮の前遺跡では石棒が採取されている。神田中遺跡では後期から前期の土器が出土している。しかし、出土した土器は少量で、また、遺構は検出されておらず、縄文時代の集落等の規模・性格等は明らかではない。

弥生時代

弥生時代前期の遺跡としては、五月山北端に位置する木部遺跡があげられる。木部遺跡は工事中に発見された遺跡で本格的な調査がされていないため、詳細は不明である。

第1図 宮の前遺跡壁穴式住居跡
第2図 遺跡分布図
しかし、弥生時代前期から後期の土器が出土しており、池田市内では唯一弥生時代全般を通じて営まれた遺跡である。弥生時代中期においては、台地上に位置する場所で遺跡が現れるようになる。宮の前遺跡は昭和43年・44年に岩質自転車道建設にともない、大規模な発掘調査がなされ、円形周溝墓、堅穴式住居跡、土壌葬等の遺構が多数検出されている。また、宮の前遺跡から西へ約1 kmに位置する豊島南遺跡では円形周溝墓が検出され、宮の前遺跡との関連が注目される。後期に入ると、宮の前遺跡、豊島南遺跡は消滅し、かわって、五色山の丘陵上に位置する池田城跡下層、谷衝遺跡、京中遺跡、愛宕神社遺跡等の遺跡が現れる。池田城跡下層では平成3年の調査において、ペット状遺構を伴う堅穴式住居跡が検出されている。また、台地では神田北遺跡においては、堅穴式住居跡、土壌が検出されているが、全体的に後期に入ると集落は五色山の丘陵に散在するようになり、小規模化する。

古墳時代

池田市内で古墳時代前期に築造された古墳は、池田茶臼山古墳と姫三堂古墳が挙げられる。この2つの古墳の主体部は全く堅穴式石室である。池田茶臼山古墳は五色山塊より派生する丘陵の鞍部に築造された全長62mの前方後円墳で、葺石、埴輪列が検出されている。一方、姫三堂古墳は池田茶臼山古墳より北西約500m離れた五色山中腹に位置する径27mの円墳で、石室内からは画文帯神明鏡が出土し、平成元年度の調査の結果、同一の墓壙内に堅穴式石室と埴土柵が存在することが確認されている。古墳時代中期に至ると小規模な低い丘古墳が宮の前遺跡、豊島南遺跡で見られるようになる。古墳時代後期では晩海1・2号墳、木部1・2号墳、木部桃山古墳、須恵器の陶棺を持つ五色ヶ丘古墳のような単独、あるいは2・3基を1単位とする小規模な古墳が現れるが、群集墳は形成されない。しかし、一方で、巨大な横穴式石室を有する弥塚古墳や前方後円墳の二子塚古墳が築造されており、この地域の古墳の中でも、異質の存在である。

古墳時代の集落遺跡としては、古江遺跡、木部遺跡等で須恵器や土師器が出土しているが、これらの遺跡では、遺構の詳細は判然としない。豊島南遺跡では神室式の土器を伴う燒灰住居が検出され、現在のところ、市内において古墳時代前期の集落遺構が確認された唯一の遺跡である。中期に入ると少しばかりあるが、検出遺構も増していく。宮の前遺跡では堅穴式住居跡が検出されており、また、豊島南遺跡では堅穴式住居跡、溝が検出されている。

歴史時代

集落遺跡としては、宮の前遺跡で奈良時代の掘立柱建物跡・溝跡が検出されおり、豊島南遺跡、神田北遺跡に
おいても奈良時代の掘立柱建物跡等が検出されている。寺院跡としては白鳥・天平時代の瓦が採取された石破庵寺があるが、未調査のため詳細は明らかではない。中世では神田北遺跡で掘立柱建物跡が検出されており、呑庭組と関係するものとも考えられる。

室町時代から戦国時代にかけて、国人の池田氏が豊島郡一帯の政治、経済を掌握するようになる。その池田氏の出自の詳細は明らかではないが、応仁の乱ごろから摂津守護細川氏の被官として勢力を拡張させていくが、永禄11年（1568）織田信長の摂津入国により、池田氏は決して終末を余儀なくされ、ついには、元家臣荒木村重によって、その地位を奪われることになる。池田氏の居館であった池田城は、五月山から南方へ張り出した台地上の南麓に位置する。昭和43・44年に主郭部の一部分が調査された際、礫石を伴う建物跡や枯山水様の庭園跡が検出され、また、平成元年度から平成4年度の調査では虎口、建物跡、小規模な石垣、内堀、併列建物跡等を確認している。

参考文献
坂口重雄「地形と地理」『池田市史』改訂版 1980年
富田好久「考古学に挑戦した池田」『新編池田市史』改訂版 1971年
横田和明「原始・古代の池田」池田市立池田中学校地歴部 1985年
II 宮の前遺跡発掘調査

はじめに

宮の前遺跡は池田市石橋4丁目、住吉1・2丁目、豊中市塩池北町に広がる旧石器時代から中世に至る複合遺跡である。その場所は、待兼山の丘陵よりも西方へ発達した標高約30m前後

の洪積台地に立地している。この台地は、猿名川によって形成された沖積平野とは約10m

の比高差を有する。周辺の遺跡としては、南方に弥生時代中期の方形周溝墓等が検出された豊島

南遺跡、弥生土器、須恵器が採取された住吉宮の前遺跡が位置し、両方に高地性集落と考えら

れる待兼山遺跡、須恵器、瓦を生産した桝井古窯跡群が広がり、また、南方に当遺跡と同一

の性格を有する塩池北遺跡、5世紀の掘立柱建物跡が検出された塩池東遺跡１）、国府型ナイフ

形石器が出土した塩池西遺跡２）等が挙げられる。

当遺跡は、昭和の初頭に地元の人々により石器や土器などが採取され、遺跡の存在が知られるようになったが、本当の調査が行われておらず、遺跡の性格等は不明であった。しかし、昭和43、44年の中国縦貫自動車道建設に伴い発掘調査が实施され３）、その結果、弥生時代中

期の方形周溝墓、堅穴式住居跡、土壌壁等の他、古墳時代の堅穴式住居跡、古墳跡が検出され

た。特に、当時検出例が少なかった方形周溝墓が多く検出されたことから、住居城と墓域が同

時に把握できる貴重な例として注目を浴びることとなった。また、奈良時代の掘立柱建物跡、

井戸、平安時代の掘立柱建物跡等も確認され、弥生時代から中世に及ぶ複合遺跡として認識さ

れるようになった。

その後、大阪府教育委員会、豊中市教育委員会、池田市教育委員会により、マンション等の

開発に伴う事前調査で、遺跡の範囲は東西700m、南北900mと拡大している。また、昭和61

年度の大阪府教育委員会による調査、平成元年度の豊中市教育委員会による調査で、国府型ナイ

フ形石器が出土し１）、当遺跡が旧石器時代までのものであることが判明している。

注 (1) (財)大阪文化財センター『塩池東遺跡現地説明会資料』 1992年

(2) 豊中市教育委員会『淀津豊中 大塚古墳』 1987年
宮の前遺跡第32次調査

調査地は池田市石橋4丁目304-3に位置する。調査は個人住宅新築に伴い実施したものである。本調査地は、宮の前遺跡の北東端に位置する。今までの周辺の調査の結果、遺物包含層の存在が予想されるため、小規模なトレンチを設定し、調査を実施した。調査面積は9㎡である。

調査の概要

層序は表土および盛土と地山の黄褐色粘質土からなる。

検出遺構は調査区南側から杭跡および溝跡を検出したが、それぞれ深さが10cm前後と浅い。出土遺物は、溝跡から検出されたが遺物はすべて小片で、図化はできなかった。弥生時代中期から中世に属するものと考えられる。

宮の前遺跡第33次発掘調査

調査地は池田市石橋4丁目302-12・13に位置する。調査は個人住宅新築に伴い実施したものである。本調査地は宮の前遺跡第32次発掘調査地の東側に隣接している。発掘調査は調査地の南部に小規模なトレンチを設定し、調査を実施した。調査面積は6㎡である。

調査の概要

層序は3層からなる。第1層は表土および盛土、第2層は黄褐色シルト、第3層は黄褐色粘質土の地山である。第2層は残存状況が悪く、途切れるところもあり一定ではない。

検出遺構は調査区全体からピットおよび溝跡を検出した。しかし、遺構の残存状況も悪く、時期決定も難しい。

出土遺物は第2層から瓦器類等が出土した。しかし、小片のため図化はできなかった。
宮の前遺跡第34次発掘調査

調査地は池田市石橋4丁目304-11に位置する。調査は個人住宅新築に伴い実施したものである。本調査地は宮の前遺跡第33次発掘調査地の東側に隣接している。発掘調査は調査地の南部に小規模なトレンドを設定し、調査を実施した。調査面積は9㎡である。

調査の概要

基本層序は4層からなり、第1層は表土および盛土、第2層は黄褐色シルト、第3層は黒褐色シルト、第4層は黄褐色粘質土の地山である。今回の調査地の土層は、隣接する第32次・第33次調査地とは異なり残りが良い。

検出遺構は、ピット、土坑などである。

土坑1 94cm×74cmの大きさで稲円形をしており、深さ16cmで、第4層の地山面で検出した。出土遺物は瓦器箪笥（第10図）である。瓦器箪笥はほぼ完形で出土した。高台の断面は四角形をしているが、一部不成形な部分もある。また、残存も悪く暗文等は、はっきりとしない。

柱穴1 40cm×42cmの大きさで方形のビットで、深さ15cmを測る。第4層の地山面で検出した。北側のおおよそ2m離れた位置にSP-2があり、罹立柱建物跡等の復元に関わるかもしれない。出土遺物は瓦器箇などである。

今回の調査により、検出された柱穴や土杭などからはすべて瓦器箇等の中世遺物が見つかっており、調査地周辺には中世の集落の存在が推定できる。
Ⅲ 鉢塚古墳発掘調査

はじめに

鉢塚古墳は、池田市鉢塚2丁目、五社神社の境内の中に位置している。古墳が位置する場所は、五月山から派生した丘陵の端に位置し、標高約40mを図る。

鉢塚古墳は、石室の大きさから古く知られており、ウイリアム・ゴウランドの「日本のドレメンとその築造者達」の中で「テラスのある墳丘」と記され、末永雅雄『日本の古墳』では「塚は森に覆われて前方後円もしくは方形のようであるが、よく見ると円形の線が出ている」とある。また、同氏の『古墳の航空大観』には「長い年月の間に人工的加工があったために墳丘は上円下方を思わせる現状に至り、周辺からの浸食を受け隠され現状を思わせる現状もそのためかもしない」とあり、墳丘の形状については判然としていなかった。しかし、平成5年の池田市教育委員会（関西大学考古学研究室実測）の行なった墳丘実測調査から、約45メートルの円墳である蓄積性が高くなった。

石室構造については、昭和9年の河原安治氏により実測が行なわれ、平成6年の池田市教育委員会（関西大学考古学研究室実測）の行なった石室実測調査によると、横穴式石室の全長が、14.88m、玄室の長さ6.46m、高さ5.2m、幅3.2m、築道の長さ8.40m、高さ平均2m、幅平均1.8mである。石室はなくなっているが、
石棺と考えられる石材が現地門部に残っている。石室の奥には石造十三重塔（国指定重要文化財）・石仏・仏壇が配置されている。

鉾塚古墳第1次発掘調査

発掘調査は鉾塚2-345-6において、個人住宅建築に伴い実施した。この場所は鉾塚古墳の東側に隣接地しており、古墳の周溝等が広がる可能性のある場所である。東西方向に長方形のトレンチを設定し、調査を実施した。

調査面積は9㎡である。

層序はおおよそ4層に分けられる。第1層は表土および耕土、第2層は暗褐色のシルト、第3層は黄褐色シルトで瓦器類・土師器皿等の中世遺物を多く含む、第4層は黄褐色の礫を多く含む砂質シルトの地山である。

調査の結果、鉾塚古墳の周溝と考えられる明確な落ち込みは検出できなかったが、トレンチ中央から西にかけて若干落ち込んでおり、トレンチ東側では地山面がT.Pレベル34.85mで水平にとどまっているため、そのことから、この調査終了時は、このラインが周溝外側のラインと考え、第3層は周辺に広がる中世の遺物包含層と考えていた。しかし、次の第2次調査の結果、周溝外側のラインが広がること、中世遺物包含層は周溝の礫土がわかる。

出土遺物

すべて第3層から出土したもので、①・②は土師器皿で手すすねを体部を成形し、口縁部付近はナデで調整する。外面底部には指圧痕が残る。③は須恵器を口縁部はヨコナデで調整し、外面体部はタタキが残る。④は瓦質の火鉢で、外面に縞紋が施されている。これら以外にも瓦器類等が出土しているが、多くは①・②のような土師器皿である。

鉾塚古墳第2次発掘調査

発掘調査は鉾塚2-345-5において、個人住宅建築に伴い実施した。この場所は鉾塚古墳の東側に隣接地しており、また、鉾塚古墳第1次発掘調査の北側に位置する。そのため、古墳の周
溝等が広がる可能性のある場所である。古墳の周溝に向かうと思われる場所にトレレンチを設定し、調査を実施した。調査総面積は15㎡である。

第1トレレンチ

調査地の西側に設定したトレレンチで面積は約12㎡である。

層序は第1層は表土および耕土、第2層は暗褐色のシルト、第3層は黄橙色の砂が多く含む砂質シルトの地山である。

トレレンチ北東隅、第3層の地山上から北西-南東に延びる周溝と考えられる落ち込みを確認した。工事の関係上、全面掘削はできなかったので、両壁面沿いに幅30cmの土層観察用の側溝を掘り、周溝の概要を確認した。周溝はT.Pレベル35.80mから落ち込んでおり、底はT.Pレベル35.00mで平坦となることから周溝の深さはおよそ80cmとなる。

第2トレレンチ

調査地の南側に設定したトレレンチで、第1次調査の調査結果を再確認するため敷地の南側にトレレンチを設定した。面積は約3㎡である。

層序は第1トレレンチと同じで、第1層は表土および耕土、第2層は暗褐色のシルト、第3層は黄橙色の砂が多く含む砂質シルトの地山である。

トレレンチの中央部において、第3層の地山上から北-南に延びる周溝と考えられる落ち込みを確認した。周溝はT.Pレベル35.70mから西へ向かって落ち込んでおり、周溝の掘削は深さ40cmほどであったが、第1次調査の周溝底T.Pレベルは34.85mであったので、周溝の深さはおよそ85cmとなる。

第3トレレンチ

調査地の北側に設定したトレレンチで面積は約2㎡である。

層序は第1・2トレレンチと同じで、第1層は表土および耕土、第2層は暗褐色のシルト、第3層は黄橙色の砂が多く含む砂質シルトの地山である。トレレンチ北側では第2層がなくなり、耕土の下に地山が堆積する状態である。
トレングチ南端から北西－南東に延びる周溝と考えられる落ち込みを確認した。周溝は T.P レベル 35.80m から南西に落ち込んでいる。

以上のトレングチのほかに第 4 トレングチ（1 m × 0.5m）を第 2 トレングチの南側に設定し掘削した。調査結果は第 2 トレングチの調査結果とほぼ同じで、周溝と考えられる落ち込みを確認したが、図版の掲載等は省く。

現在の鉱塚古墳は、上円下方墳に似た墳丘をしているため、上円下方墳との意見があったが、今回の調査は、鉱塚古墳は周溝を有する円墳であることを裏付ける結果となった。調査結果から周溝の幅は約 7m、深さ約 80cm で、断面形は細長い逆台形と考えられ、周溝を含めた鉱塚古墳の直径は、約 62m と推定される。
<table>
<thead>
<tr>
<th>所取跡号</th>
<th>所在地</th>
<th>コード</th>
<th>北緯</th>
<th>東経</th>
<th>調査期間</th>
<th>調査面積</th>
<th>調査原因</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>みそやまえ</td>
<td>宮の前遺跡第32次</td>
<td>いそじし</td>
<td>34°47分</td>
<td>135°36分</td>
<td>010427</td>
<td>9㎡</td>
<td>個人住宅新築のための事前調査</td>
</tr>
<tr>
<td>みそやまえ</td>
<td>宮の前遺跡第33次</td>
<td>いそじし</td>
<td>34°47分</td>
<td>135°36分</td>
<td>010608</td>
<td>6㎡</td>
<td>個人住宅新築のための事前調査</td>
</tr>
<tr>
<td>みそやまえ</td>
<td>宮の前遺跡第34次</td>
<td>いそじし</td>
<td>34°47分</td>
<td>135°36分</td>
<td>010620</td>
<td>9㎡</td>
<td>個人住宅新築のための事前調査</td>
</tr>
<tr>
<td>はしるた</td>
<td>鉄塚古墳第1次</td>
<td>はしるた</td>
<td>34°48分</td>
<td>135°36分</td>
<td>010730</td>
<td>9㎡</td>
<td>個人住宅新築のための事前調査</td>
</tr>
<tr>
<td>はしるた</td>
<td>鉄塚古墳第2次</td>
<td>はしるた</td>
<td>34°48分</td>
<td>135°36分</td>
<td>010820</td>
<td>15㎡</td>
<td>個人住宅新築のための事前調査</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>所取跡号</th>
<th>種 別</th>
<th>主な時代</th>
<th>主な遺構</th>
<th>主な遺物</th>
<th>特記事項</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>宮の前遺跡第32次</td>
<td>集落跡</td>
<td>中世</td>
<td>辻・杭</td>
<td>土師器等</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>宮の前遺跡第33次</td>
<td>集落跡</td>
<td>中世</td>
<td>辻・杭</td>
<td>土師器等</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>宮の前遺跡第34次</td>
<td>集落跡</td>
<td>中世</td>
<td>土杭・柱穴</td>
<td>瓦器等</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>鉄塚古墳第1次</td>
<td>古墳</td>
<td>古墳・中世</td>
<td>周溝</td>
<td>瓦器等</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>鉄塚古墳第2次</td>
<td>古墳</td>
<td>古墳・中世</td>
<td>周溝</td>
<td>瓦器等</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
図版2
宮の前遺跡発掘調査

（1）第34次発掘調査 トレンチ全景（南から）

（2）第34次発掘調査 埋杭1（西から）
図版3
鈴塚古墳発掘調査

(1) 第1次発掘調査 トレンチ全景（南東から）

(2) 第2次発掘調査 第1トレンチ全景（南西から）
池田市文化財調査報告第27集
池田市埋蔵文化財発掘調査概報
2001年度
2002年3月
発行 池田市教育委員会
池田市城南1丁目1番1号
編集 社会教育課 文化財担当
印刷 西村印刷株式会社